# ～IS～FINALFANTASY

King of Ctastrophe

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
～ＩＳ～ＦＩＮＡＬＦＡＮＴＡＳＹ

【Ｎコード】
Ｎ５４７４Ｙ

【作者名】
Ｋｉｎｇ　ｏｆ　Ｃｔａｓｔｒｏｐｈｅ

【あらすじ】
２つの学校、
一つは【ＩＳ学園】インフィニットストラトスを扱う最高科学をもった学園
一つは【帝学院】魔法を使い軍神と呼ばれる神を操る神使いを育てる学院
二つの学校は兄弟学校だが、陰では多くの思惑が入り乱れ帝のエース天神（アマガミ）　聖（ヒジリ）とそのヒロイン達が
その思惑の上で踊る最後の物語である。

## プロローグ（前書き）

初投稿です
まだ中学生で、更新速度が遅いですが
どうか、読んでください。

どうぞ。

# プロローグ

プロローグ

「なあ更識、俺がここに入っていのか？」
『大丈夫よ』
「なんでそう言い切れるんだよ」
『生徒会長権限があるから』
「それ、もっとマシなのに使えよ」
『いいのいいの、さてついたよ』
「ここは？」
『、ＩＳ学園，ＩＳハンガーよ』
「はぁ！？」
連れてこられたのはＩＳが置かれているハンガーだった
『これに触ってみて』
「え？何で？」
『いいから』
「いいけど何もないと思うぞ？俺は男だし、魔法力も持っているの…に……動いた！？」
ＩＳ…インフィニットストラトス
女性にしか動かせず、帝学院の生徒のように体内に魔法力を持っている人は
ＩＳのコアが拒絶反応を起こし動かすことのできない。
「な、何で？」
『おめでとう』
「おかしい、俺は帝学院、四神，の（朱雀）だぞ？動くはずがない、その前に俺は男だ。」
『そう、あなたは常人の２倍の魔法力を持っていながら帝学院，総帥，に次ぐ，神使い，』

四神…帝学院総帥の直属の四人個人が２つ名を持つ（玄武（ゲンブ）、蒼龍（ソウリュウ）、白虎（ビャッコ）、朱雀（スザク））

四人は別の魔法クリスタルを体内に持っていて専用の‘軍神’を操る能力を持っている

『そして、世界で２番目に男性でＩＳを動かせることのできる人』

「はぁ？」

『さて、織斑先生？』

＞ああ、お前、今すぐＩＳ学園に入れ＜

『ちなみに言うと拒否権はないわよ？』

「えぇぇぇ～」

これから始まるのは１人の神使いの物語である。

## プロローグ（後書き）

前書きにもあるように、更新は遅いかもしれません
どうぞよろしくお願いします。

## 部分設定、主人公紹介

設定

ＩＳ…インフィニットストラトス
女性にしか反応せず、帝学院の生徒は体内に
持つ‘魔法力’とＩＳのコアが拒絶反応を起こし
起動しない。

軍神…グンシン
帝学院の生徒のみが召喚でき、体内に持つ魔法力
がある者のみ制御できる。
種類は多彩で、四神ともなれば専用軍神をもてる。

主人公

天神　聖…アマガミ　ヒジリ
身長…１７３ｃｍ
体重…５３ｋｇ
視力
右…不明
左…２．０
右目の色が赤色
左目は黒　右目に眼帯を付けている
眼帯を外せばＩＳを一撃で破壊できる魔法力を持つ
眼帯は、その魔法力を抑えるために付けている。

四神…朱雀の称号を持つ
専用軍神…アルファディオス
ＦＦ零式のバハムート零式がベース

更識家とは面識があり、楯無とは幼馴染でもある簪(かんざし)とも仲がいい。

## 1話　転入初日に喧嘩？（前書き）

早く出来たので、

では早速どうぞ

# 1話　転入初日に喧嘩？

『皆さーん、席についてくださーい』
ゆっくり口調で言うのは一年四組担任の川口先生である
＜はーい＞
『なんと今日は転校生が来ています、入ってきてくださーい』
ガラガラ
「失礼します」
『はい、転校生の天神君です』
「天神（アマガミ）　聖（ヒジリ）です。皆より一つ年上だけど呼び捨てでも
　構いません。一年間よろしくお願いします」
＜お、男？＞
「はい、そうですが？」
＜＜＜キタ━（゜∀゜）━！＞＞＞
＜二人目の男子！＞
＜しかもうちのクラス！！＞
＜千冬様みたいなクール系の！！！＞
『はいはーい皆さん静かにしてください！
　天神君の席は更識さんの後ろね。』
「更識？」
『そう、そこの青い髪の生徒』
「簪（かんざし）ちゃんか、久しぶりだね」
「うん」
「姉さんとは仲良くなれた？」
「いいえ、仲良くなる気ない」
「そうか、まあいいか、これからよろしく」
「うん」
「（ずっと画面ばっか見ているな）」
『さて、今日のＳＨＲはクラス代表を決めます。自薦他薦構いませ

んよ』
＜はい、天神君を推薦します＞
＜＜＜私も＞＞＞
「はぁ、自分はやってもいい［ちょっとまって］　誰ですか？」
［私は、アフリカの代表候補生（カリア・サーチェスタ）よ］
「そうですか」
「で、なんですか？」
［全く男みたいな薄汚いやつがクラスの代表？
笑わさないでくれる？実力から言えば相応しいのは私か
更識さんのどちらか、そんな弱そうな「誰が弱いのかな」ッ！］
［え、あなたに決まっているでしょう］
「なら、俺と勝負してみる？特別ルールで、
君がＩＳ俺がＩＳ‘以外’で」
［は？あんたバカ？ＩＳに勝てるのはＩＳだけだよ？もしかして頭も
弱っちいんじゃない？］
「べつにＩＳ以外でＩＳに勝つ方法ならあるしね」
［わかった受けて経とうじゃない、その鼻へし折ってやる］
「どっちの鼻が折れるかな？」
『決まりましたね、試合は来週の月曜日、一組と同じ第四アリーナ
で』

休み時間

『どうするの？』
「普通に倒すか、苛めるか？」
『違う、勝てるの？』
「勝てるさ」
『でも彼女の実力は私より上だよ？』
「簪ちゃん」
『なに？』

「先に言っておくよ、
俺は

（朱雀）だ」

## 1話　転入初日に喧嘩？（後書き）

ちゃんとできてるか心配です
そろそろ、軍神だしますよ。

次回　第二話　クラス代表決定戦
よろしくお願いします。

## 2話　クラス代表決定戦（前書き）

戦闘模写がうまくできません
でも広い心で見てください。

## 2話　クラス代表決定戦

『織斑先生』
「川口先生、なんですか？」
『一組が終わったら四組も使ってもいいですか？』
「ええ、構いませんよ」
ビー　試合終了　勝者、セシリア・オルコット
「あれ？今戦っているのって」
『そうです、一組に居る同じ男子の一夏君ですよ』
「そうなんですか、次自分ですよね？川口先生」
『そうですね頑張ってください』
『聖兄さん、』
「簪ちゃん大丈夫、俺はＩＳごときには負けないさ」

「さあ、始めようＩＳと軍神の戦いを」
彼は黒の服の上から赤のマントを付けた制服のような服を付けていた

『あれ？来たんだ、遅いから逃げたと思ったけど』
「そっちこそ逃げないんだな、」
『は？ＩＳがＩＳ以外に勝てないのにＩＳを使わないあなたから逃げるなんてありえないわよ』
「じゃあ、はじめよう　≪我、四神が一人、クリスタルよ呼び掛けに答えよ≫」
『な、何！？』
＜＜＜何あれ、龍？＞＞＞
一瞬の光の後、一本の光の柱から龍のような生き物が現れた
「聖なる光の王　アルファディオス」
それでは、試合開始！
『ッ―そんな化け物なんかに！』

「アルファディオス―メガフレア」
アルファディオスの前に一つの魔方陣が出てきた
そこから一条の光の線が伸びてきた
ドガァン
『キャアアア』
＜＜＜何が起こったの！？＞＞＞
≪ＳＥダメージ２１９　ＳＥ残量３５８　ダメージレベル高≫
『クッ、何？…え？…嘘（ＳＥが２００近く削られた！？）』
「アルファディオス―パラライズパルス」
今度は彼女のうえに魔方陣が出来た
すると、電撃が落ちＩＳが動かなくなった。
『な、何で！？』
「アルファディオス―セイントボム」
『キャアア』
＜＜＜まただ、光っただけで＞＞＞
≪ＳＥダメージ２８５　ＳＥ残量２３　ダメージレベル高≫
≪シールドエネルギー残量危険域到達≫
『何で！―全く攻撃が届かない』
「最後だ、アルファディオス―切り裂け！」
『キャア！―つ、掴まれた！？』
＜＜＜あんな大きいのに早い！？＞＞＞
ビー　試合終了　勝者、天神　聖
『……』
「？―ッアルファディオス助けろ！」
パスッ
「間に合った―川口先生！すぐに保健室へ」
［は、はい］

保健室
＜外傷はありません、気絶してるだけですよ＞

「良かった、なら大丈夫だろう。」
『何で、心配してたの？』
「何でってそりゃ怪我人を心配するのは当たり前だぞ？」
『でも喧嘩を売ってきたんだよ？』
「何を言ってるんだ簪ちゃん？敵でも人の命だよ？」
『……昔から聖兄さんは変わってない』
「そうかな、まあ、あまり変わりすぎても大変だろ」
『そうだね。先に帰ってる。』
「ああ、ＩＳ作り頑張れよ。」
『ありがとう』
パシュウ
「（意外とうるさいドアだな怪我人のこと考えてないな）」
『う～ん』
「気がついたかい？」
『ここは？』
「保健室だよ」
『保健室？』
「そう、戦ってあと気を失ったんだ。で、俺がここまで運んだってわけ」
『ッ―！』
「どうしたの？」
『あなた、何者？』
「ああ、気になるか。皆同じことを聞いてきたよ。さて、改めて自己紹介させてもらうよ俺は、

帝学院の四神が一人、≪朱雀≫だ。」

――――――――――――――――――――――――――――――――――――

―――――

とある一室

「ありえんな、一撃でＳＥが２００も持っていかれるなど」

『そうかな？』

「更識か、どうしたこんなところに」

『織斑先生に相談を』

「なんだ？」

『彼に専用のＩＳを持たさせることはやめて欲しい』

「なぜだ？」

『あの軍神はリミッター付きですよ』

「なに！？」

『リミッターを切っていれば、ＩＳなんて物は消滅してますよ』

「ありえん、本当にありえん」

『彼は、常人の３倍の魔法力を持っています、

全力をだせば、光線一つでＩＳのコアごと搭乗者も消し去ります。』

「それほどの力の持ち主ということか、だからＩＳにのせずに

軍神のみで戦わせるという訳か。」

『はい、そうです』

「分かった、掛け合ってみよう」

『ありがとうございます』

## 2話　クラス代表決定戦（後書き）

ちょっと飛びすぎな2話でしたがどうでしたか？
じかいも頑張りたいと思います。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5474y/

---

～IS～FINALFANTASY

2011年11月17日22時08分発行